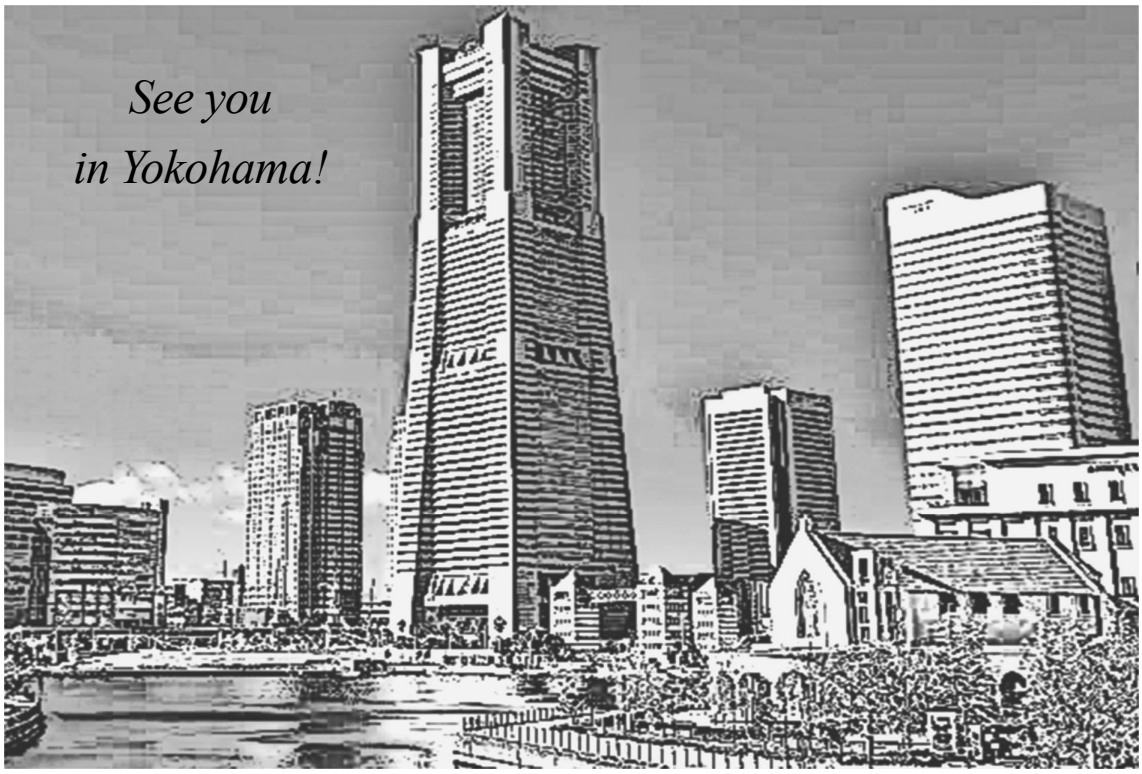
第34回
神奈川母性衛生学会総会
学 術 集 会

メインテーマ「母と子を助ける」

日　時：2021年2月6日(土)　　8：45～18：00
会　場：ワークピア横浜
学会HP：http://kanabo34.umin.jp/



会長　長谷川　潤　一
(聖マリアンナ医科大学　産婦人科学　教授)

主　催：神奈川母性衛生学会　理事長　　宮　城　悦　子
(横浜市立大学医学部産婦人科　主任教授)

共　催：一般社団法人 神奈川県産科婦人科医会

学会参加のお知らせ

＜コロナウイルス対策について＞

１．会場は、本会場と中継会場を設け、一部屋の収容人数は例年の半分で密を回避いたします。

２．ワークピア入口より常時マスク着用で、入口での手指消毒および検温をお願いします。

３．発熱もしくは上気道症状がある場合、感染が疑わしい場合のご参加はご遠慮ください。

４．混雑および筆記具の共有を避けるため、記名台の設置、筆記具の用意はいたしません。
事前に記載した登録票の提出と、座席で持参の筆記具で名札への署名をお願いいたします。

５．会話、企業展示、洗面所などの集中的な混雑を作らない様に休憩時間は設けません。
適宜、各自で休憩、企業展示などをご覧になってください。

＜受付について＞

１．受付は午前８時15分から２階で行います。

２．混雑緩和のため、受付で学会参加費4,000円と事前に記載した登録票を提出してください。
引き換えに、名札、領収書、抄録集をお渡ししますので会場内にお進みください。

３．学会参加費には2020年度年会費2,000円を含みます。

４．着席の上、名札に記名して常時名札の着用をお願いいたします。

５．該当する方は、日本産科婦人科学会産婦人科専門医制度のｅ医学会カードの登録、日本産婦人科医会の研修参加証をお受け取りも済ませてから着席してください。

＜アドバンス助産師の承認研修について＞

１．教育講演２と３は、アドバンス助産師（CLoCMiP®）の承認研修「分娩期の胎児心拍数陣痛図（CTG）に関する研修助産実践能力習熟段階（クリニカルラダーレベルⅢ）」となっています。

２．教育講演２の始まりと教育講演３の終わりに着席のまま認定手続きをします。
不在の場合は認定されませんのでご注意ください。

３．認定には助産師免許番号の記載が必要です。

＜一般演題の発表について＞

１．当日受付はいたしません。発表者へは事前に事務局へe-mail等でお送りいただきます。
詳細は、演者に事前にご連絡いたします。

２．講演時間は５分、討論時間は２分です。時間厳守でお願いします。

３．講演者は講演終了後もそのセッションが終了するまで演者席付近で待機して下さい。

４．発表データは講演終了後、学会事務局で責任を持って消去し、返却は致しません。
オリジナルのコピーを提出してください。

プログラム

8：15～	受付開始
8：45～ 8：50	開会挨拶
8：50～ 9：40	一般演題　第Ⅰ群（妊娠期・健診）
9：40～10：40	**教育講演・1　母体救急「母を助ける」**[1)] **演者：橋　井　康　二**（ハシイ産婦人科　院長） 座長：中　村　幸　代（横浜市立大学医学部看護学科母性看護学　教授）
10：40～11：40	一般演題　第Ⅱ群（分娩期）
11：45～12：35	**ランチョンセミナー（株式会社日本免疫粧研・株式会社未来　共催）**
12：35～12：50	総　会
12：50～13：35	**海外で母と子を助ける助産師の講演** **「産科フィスチュラ問題に対する助産師の取り組み」** **演者：小笠原　絢　子** （産科フィスチュラ研究・啓発団体ララアース代表 助産師） **ラオスの『母と子を助ける』活動** **演者：大　竹　恵　実**（元 JICA海外協力隊 助産師） 座長：後　藤　淳　子（聖マリアンナ医科大学病院 産科師長）
13：35～14：35	**教育講演・2　胎児新生児救急「子を助ける」**[1) 2)] **演者：池　田　智　明**（三重大学医学部産婦人科学教室　教授） 座長：安　藤　紀　子（横浜市立市民病院産婦人科　診療担当部長）
14：35～15：25	一般演題　第Ⅲ群（メンタルヘルス）
15：25～16：25	**特別講演　母児急変現場において多職種で協働するために**[1)] **演者：鈴　木　　真**（亀田総合病院 医療管理本部 医療安全管理室 室長） 座長：宮　城　悦　子（横浜市立大学医学部産婦人科 主任教授）
16：25～17：15	一般演題　第Ⅳ群（チーム医療・その他）
17：15～17：45	**教育講演・3　CTG判読とピットフォール**[2)] **演者：長谷川　潤　一**（聖マリアンナ医科大学産婦人科学 教授） 座長：藤　波　富美子（神奈川県看護協会 助産師職能理事）
17：45～18：00	最優秀演題表彰式・閉会挨拶

1）産婦人科領域講習
2）アドバンス助産師（CLoCMiP®）承認研修 分娩期の胎児心拍数陣痛図（CTG）に関する研修

一　般　演　題

★：優秀演題賞候補

第Ⅰ群　妊娠期・健診　8：50 ～ 9：40

座長：飯田真理子（横浜市立大学医学部看護学科）
本間　千夏（聖マリアンナ医科大学産婦人科学）

Ⅰ－1　横須賀市内の出産施設に通院する初産妊婦の妊娠前の食生活の現状
竹内章子、三澤蒔絵、藤原良子、平本正美、中島香織、鈴木令佳
一般社団法人　横須賀市助産師会

Ⅰ－2　帰省中の34週妊婦による出血の訴えに対する助産院と医療機関の連携
絹田友紀奈[1)]、小林麻紀[1)]、岡本登美子[1)]、塩谷由美子[1)]、柳川多恵[1)]、安井真弓[1)]、増澤祐子[2)]
ウパウパハウス岡本助産院[1)]、東京医療保健大学[2)]

Ⅰ－3　脊髄損傷妊婦の出産までの管理　～その人らしさを活かしたケア～
三浦真紀、川端房絵
北里大学病院　産科病棟

Ⅰ－4　胎児疾患を有する妊婦への周産期チームとしての関わり
海老澤瑛子、中内沙知、石原沙織、小川喜美子、平林奈苗
北里大学病院　周産母子成育医療センター　産科病棟・MFICU

Ⅰ－5　生活保護受給者・入院助産制度利用者への支援　～多職種との連携～
対馬里香、粕谷苑子、谷添可南、仙井勇三子、小田りつ子
川崎市立多摩病院

Ⅰ－6　当院における産後２週間健診の現状と課題　～健診後の母親の満足度調査からみえたこと～
★　豊増理伽、亀田志織、山田友里、岸　恵、横谷裕子、青島まゆ、萩野久美、内澤彩香
関口保子、本谷菜穂子
平塚市民病院

Ⅰ－7　中国人向け両親教室の立ち上げについて
～子育て世代包括支援センターとしての在留外国人への取り組み～
川上千鶴[1)]、藤富絵里香[1)]、福田久美子[2)]
横浜市中区役所こども家庭支援課[1)]、かながわ国際交流財団[2)]

第Ⅱ群　分娩期　10：40 ～ 11：40

座長：三宮まやか（聖マリアンナ医科大学病院）
葛西　　路（横浜市立大学附属市民総合医療センター）

Ⅱ－1　分娩期の効果的な食事摂取への支援の検討
★　神山奈津子、青木成美、井出知里、高橋美可子
独立行政法人国立病院機構　横浜医療センター

Ⅱ－2　超緊急帝王切開後のバースレビューにおける助産師の体験
川北かおる[1)]、八木良美[1)]、笠原明子[1)]、箕輪有美子[1)]、世登亜貴奈[1)]、石井美里[2)]
東海大学医学部付属病院[1)]、東海大学大学院健康科学研究科[2)]

Ⅱ－３　妊娠中に希望していた母乳育児を実現させるために　～助産師のサポートに関する探索的検討～
四戸千香、高野麻理、友廣　薫
康心会汐見台病院　産科病棟

Ⅱ－４　無痛分娩を選択した産婦の思い　～バースプランに寄り添う助産ケアのために～
冨井小百合、小林仁美、橋田奈津美
けいゆう病院　産科病棟

Ⅱ－５　無痛分娩の隠れたメリット　～医療者の観点から～
島田真紀子、山田美幸、日下桃子、大塚美奈子、三浦和美、岩附紀美子、荻島静香
今西博治、坂野　彰
医療法人　緑椿会　おとめクリニック

Ⅱ－６　Ａ大学病院における無痛分娩の取り組みと課題
大久保敬子、山本祥子、吉田とも子、岸野亜矢
公立大学法人　横浜市立大学附属病院　産婦人科病棟

Ⅱ－７　助産師を対象とした母体救命（J-MELS）コースの開催報告
山本　恵、穂積三恵
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院

Ⅱ－８　新生児蘇生法の教育・支援システムに向けた取り組み
小谷野みどり、川下芽生、菅原　琴、小川喜美子、中西秀彦、水上いづみ
北里大学病院　看護部

第Ⅲ群　メンタルヘルス　14：35 ～ 15：25
座長：横田　弘子（神奈川県看護協会）
近藤　春裕（聖マリアンナ医科大学産婦人科学）

Ⅲ－１　不妊治療後の妊娠期の心理支援　～妊娠レビュー実践例の一考察～
舛谷寛子
日本医科大学武蔵小杉病院

Ⅲ－２　助産師による訪問看護の実践　～精神疾患合併妊産婦の事例より～
鈴木令佳、三澤蒔絵、鬼丸智恵子、鷲原香穂里、愛甲和子、田澤尚美
かもめケア訪問看護ステーション

Ⅲ－３　里帰り妊婦の不安に対する保険指導を考える
越中智穂、福田裕子、井坂めぐみ
国家公務員共済組合連合会　横浜栄共済病院

Ⅲ－４　総合周産期母子医療センターにおける助産師の妊娠期からの虐待防止の取り組みについて
★　我妻愛美、中嶋恵里香、野口　彩、後藤淳子
聖マリアンナ医科大学病院　総合周産期母子医療センター

Ⅲ－５　不安障害と診断のある育児不安を抱えた初産婦への産後早期からのＡ産後ケアハウスでの助産師の関わり
～24時間体制で不安に寄り添うことの重要性についての一考察～
岡津愛子[1)]、岡本登美子[1)]、冨井悦子[1)]、早川志穂[1)]、増澤祐子[2)]
ウパウパ産後ケアハウス[1)]、東京医療保健千葉看護学部[2)]

Ⅲ－６　産後ケア事業（宿泊型）から育児不安を抱えている母子の継続ケア
★　駒形いづ美、安井真弓、吉津知子、渋谷千春、山本真実、岡本登美子
ウパウパハウス訪問看護ステーション

Ⅲ－７　Ａ病院の育児支援について
佐藤千佳、小河原美代子、大沢いずみ、関根史子
新横浜母と子の病院　看護部

第Ⅳ群　チーム医療・その他　16：25 ～ 17：15
座長：米倉　睦弥（神奈川県看護協会）
西村　陽子（聖マリアンナ医科大学産婦人科学）

Ⅳ－１　地域の健康教育に参加した看護学生の体験　～市町村の両親学級にボランティアとして参加して～
和智志げみ、桑原さやか、新井陽子
北里大学看護学部

Ⅳ－２　総合周産期母子医療センターにおける災害対策への取り組み
★　佐伯もも花、秋元智子、池田佳菜子、松浦千夏、赤坂留美、内野夏希、三宮まやか、後藤淳子
聖マリアンナ医科大学病院　総合周産期母子医療センター

Ⅳ－３　アドバンス助産師の働く環境を管理者の視点から探る
～神奈川県内に勤務する助産師の労働管理の実態調査より～
豊泉博美、二見智枝子、久保貴巳子、塚田ひとみ、弘末睦子、吉田とも子
公益社団法人神奈川県助産師会　勤務部会

Ⅳ－４　周産期医療における多職種連携とソーシャルワーカーの役割
菊池那美子[1)]、桑島規夫[1)]、長谷川潤一[2)]、北東　功[3)]、後藤淳子[4)]、浅井由紀子[5)]
聖マリアンナ医科大学病院
メディカルサポートセンター[1)]、産婦人科[2)]、新生児科[3)]、産科病棟[4)]、NICU病棟[5)]

Ⅳ－５　心理社会的ハイリスク妊婦を支えるために多職種や地域で連携した支援の実際
★　岩月彩織[1)]、古俣和子[1)]、佐藤　匠[1)]、上倉　緑[2)]
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院　周産期センター母性部門[1)]、患者支援センター[2)]

Ⅳ－６　不育症と着床障害患者のK6の検討
川口屋奈美、宮崎友佳、笠原絵美、鮎川雅予、日永佳子、杉　俊隆
杉ウィメンズクリニック

Ⅳ－７　不育症外来患者の年齢別による心理的ストレスについて ～K6を用いた検討～
日永佳子、宮崎友佳、笠原絵美、川口屋奈美、木村麻衣子、杉　俊隆
杉ウイメンズクリニック

第34回　神奈川母性衛生学会実行委員

理　事　長	宮　城　悦　子	(横浜市立大学医学部産婦人科　主任教授)
会　　長	長谷川　潤　一	(聖マリアンナ医科大学産婦人科学　教授)
実行委員長	倉　崎　昭　子	(聖マリアンナ医科大学産婦人科学　助教)
実 行 委 員	安　藤　紀　子	(横浜市立市民病院産婦人科　診療担当部長)
	葛　西　　路	(横浜市立大学附属市民総合医療センター 総合周産期母子医療センター　診療講師)
	米　倉　睦　弥	(神奈川県看護協会　保健師職能理事)
	藤　波　富美子	(神奈川県看護協会　助産師職能理事)
	横　田　弘　子	(神奈川県看護協会　看護師職能理事Ⅰ)
	岡　本　登美子	(神奈川県助産師会　会長)
	近　藤　春　裕	(聖マリアンナ医科大学産婦人科学　助教)
	西　村　陽　子	(聖マリアンナ医科大学産婦人科学　助教)
	岩　端　秀　之	(聖マリアンナ医科大学産婦人科学　助教)
	本　間　千　夏	(聖マリアンナ医科大学産婦人科学　助教)
	岩　端　由里子	(聖マリアンナ医科大学産婦人科学　医員)
	古　谷　菜　摘	(聖マリアンナ医科大学産婦人科学　医員)
	後　藤　淳　子	(聖マリアンナ医科大学病院 総合周産期母子医療センター　産科師長)
	三　宮　まやか	(聖マリアンナ医科大学病院 総合周産期母子医療センター　産科副師長)
	内　野　夏　希	(聖マリアンナ医科大学病院 総合周産期母子医療センター　産科主任)
	山　下　佳　織	(聖マリアンナ医科大学看護専門学校　科長補佐)
	小　田　りつ子	(川崎市立多摩病院 ３西病棟　師長)
編 集 委 員	飯　田　真理子	(横浜市立大学医学部看護学科　准教授)

後　　援

神奈川県
横浜市 川崎市 相模原市 伊勢原市

公益社団法人 神奈川県医師会
公益社団法人 神奈川県看護協会
公益社団法人 神奈川県助産師会
公益社団法人 神奈川県病院協会

一般社団法人 横浜市医師会
公益社団法人 横浜市病院協会
公益社団法人 川崎市医師会
公益社団法人 川崎市病院協会
公益社団法人 鎌倉市医師会

一般社団法人 小田原医師会
一般社団法人 横須賀市医師会
一般社団法人 三浦市医師会
一般社団法人 秦野伊勢原医師会
一般社団法人 足柄上医師会
一般社団法人 厚木医師会
公益社団法人 相模原市医師会
一般社団法人 逗葉医師会
一般社団法人 海老名市医師会

横浜市産婦人科医会
川崎市産科婦人科医会
横須賀市産婦人科医会

鎌倉市産婦人科医会
平塚市産婦人科医会
小田原地区産婦人科医会
茅ヶ崎市産婦人科医会
座間・綾瀬・海老名産婦人科医会
藤沢市産婦人科医会
秦野・伊勢原・中郡産婦人科医会
逗葉地区産婦人科医会
相模原市産婦人科医会
大和市産婦人科医会
三浦市産婦人科医会

11：50～12：35　**株式会社日本免疫粧研・株式会社未来 共催ランチョンセミナー**

新生児・乳幼児からのスキンケアの重要性と正しい保湿ケア
演者：馬場　直子（神奈川県立こども医療センター　皮膚科）

究極の無添加＝０ゼロ添加®「まも肌」がベビースキンケアにもたらすもの
演者：鈴木　　洋 ／ 藤岡　　純（株式会社日本免疫粧研）
座長：岡本登美子（神奈川県助産師会 会長）

事務局：第34回神奈川母性衛生学会事務局
〒216-8511 川崎市宮前区菅生2-16-1　聖マリアンナ医科大学　産婦人科学医局
電　話：044-977-8111　　Fax：044-977-2944　　E-mail：kanagawabosei2021@gmail.com
Website：http://kanabo34.umin.jp/